



カンムリウミスズメ

# ふれあい

## 勉強がわからない時にどうするか！

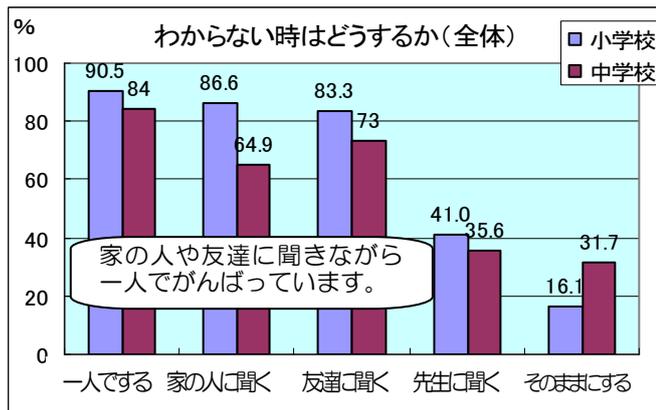
家庭で子どもが勉強をしていて、勉強するけどわからない、といったことはありませんか？ わからないことをそのままにしておくと、勉強をする気になれない、勉強をしなくなる、ということにもつながることがあります。今回の「ふれあい7号」では、家庭で勉強していてわからない時、子どもはどうするかと、という意識調査をもとに、親の役割についての情報をお伝えします。

**家で勉強していて、「わからない時にどうするか」で、大きな学力差が生まれます！**

平成23年度みやぎ学力・意識調査(小5・中2)より

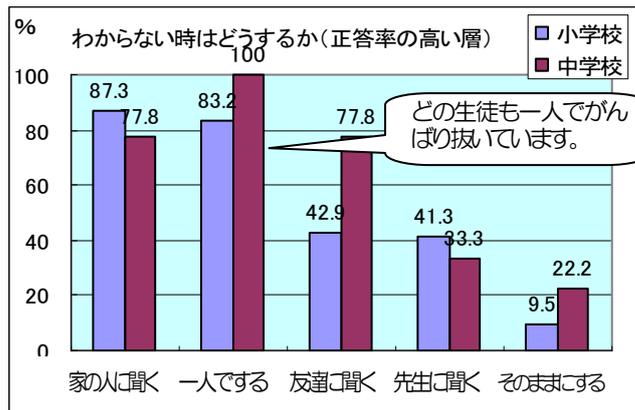
全体的には、一人でしたり、家の人や友達に聞いたりして勉強をがんばっています！

1



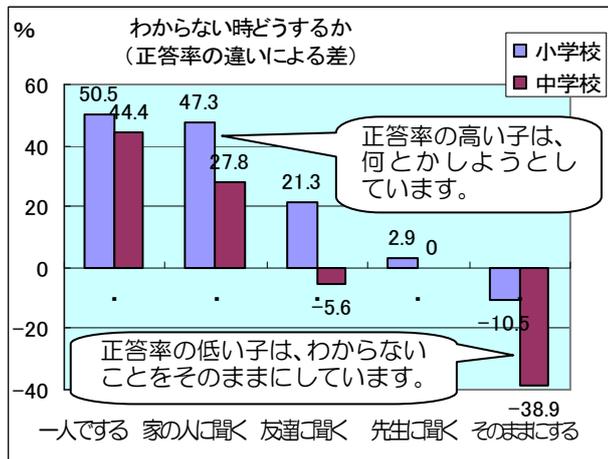
正答率の高い子は、一人でしたり、家の人に聞いたりして勉強しています！

2



わからない時に、そのままにしてしまうと、学力がつかえません！

3



グラフ①の勉強が「わからない時はどうするか(全体)」を見ると、小中学生とも「一人です」「家の人に聞く」「友達に聞く」が多いようです。

正答率の高かった子どもを調べたグラフ②では、小学生では「家の人に聞く」「一人です」が多く見られましたが、中学生では「一人です」が飛び抜けて多くなっています。小学生では家の人協力によって力をつけ、中学生になると一人でがんばることによって、力をつけているのではないかと考えられます。

正答率の高い子と低い子の差を調べたグラフ③では、小中学生とも正答率の低い子どもは、わからない時にはそのままにしてしまうことが多くなっています。正答率の高い子は、一人でがんばったり、家の人に聞いて勉強したりしていることがわかります。

## 意識調査からわかること！

勉強をしていてわからない時には、  
○ 家の人に聞くこと  
○ 一人でがんばり抜くこと  
が大切だと言えます。

このことから、親の勉強へのかかわり方や一人でやり抜くねばり強さが、学力に関係がある大きなポイントであることがわかります。

## 学年に応じた親のかかわりが大切です！

- 小学校低学年では、丸つけや読み声を聞くなど、きめ細かくかかわります。
- 小学校中学年や高学年では、ノートに勉強を見たサインや励ましの言葉を書くなど見守りを中心にかかわります。
- 中学生では、勉強の環境を整える、アドバイスをするなど間接的にかかわります。

親のかかわり方一つで、子どもの成長がちがってきます！

## 魔法の言葉「呼びかけ法」で子どもの学力を伸ばしましょう！

### 魔法の言葉1

### ほめる言葉かけ

勉強で一番大切なことは、やる気と、やり抜く力です。これは、ほめる言葉かけで育てることができます。

- ・ まちがえずに読めるようになったね。
- ・ むずかしい言葉をよく知ってるね。
- ・ 片づけがじょうずだね。
- ・ 勉強をがんばってるね。

などの、できるようになったことやがんばっていることをほめることで、子どものやる気に火をつけることができます。

### 魔法の言葉2

### 考えさせる言葉かけ

正解を教えただけでは、その場かぎりの勉強になり、身につけません。どこがまちがっているのか、どこをがんばればよいのかを気づかせる言葉かけが大切です。

- ・ 今は、何の勉強をしているのかな。
- ・ 4の段のかけ算を言ってみて。
- ・ もう一度文章を読んでみて。
- ・ 何を知りたいのかな。

などの、考えさせ、気づかせる言葉かけで、解決させるようにします。



## 教育研究所からのメッセージ

今回は、本年度行われた「みやざき学力・意識調査（小5・中2対象）」から、「勉強がわからない時はどうするか」という意識調査の結果をもとに、子どもの実態や学力を高めるために親ができる工夫を紹介しました。

子どもは自然に勉強ができるようになり、学力が身につくわけではありません。年齢や学年に応じて、勉強するように直接導いたり、間接的に環境を整えたりしていくことが大切です。親のかかわり一つで子どもの伸びが変わってきます。今回紹介した子どもの実態を参考に、「魔法の言葉かけ」を家庭でもぜひ実践してください。毎日の小さなことの積み重ねですが、きっと子どもたちの将来をきりひらく「確かな学力」を身につけさせることができます。

## 子育てや教育のことなどで、悩んでいませんか？

困った時、迷った時は、  
教育相談室に気軽に電話してください。

電話相談（門川町教育相談室）  
63-1566

~~~~~返信欄（教育研究所便り「ふれあい」へのご意見や感想をお聞かせください。）~~~~~

